

正 交

地方落穂集

十三十四

73  
6763  
7





門 73  
號 6763  
卷 7



校正地方落穂集卷之十三目錄

目錄

- 一 轉切支丹血脈續の事
- 一 切支丹類族属致方の事
- 一 京都町奉行所より有之帳面字の事
- 一 類族より出べき者の事
- 一 本人本人同然伺書の事
- 一 宗門改の節旗本より書上文言の事
- 一 同大名衆より書上文言の事
- 一 伺證文案詞の事
- 一 取置證文案詞の事

校正地方落穂集 卷之十三 目録



- 一切支丹類族病歿届の事
- 一同出生届の事
- 轉切支丹類族出生届の事
- 享保年中切支丹一件書付の事
- 村方より差出を注進書の事
- 檢使手代へ取置寺院村役入證文の事
- 代官より切支丹奉行へ差出を注進書の事
- 享保十八年切支丹奉行用入へ問合の事

校正地方落穂集卷之十三目錄畢

校正地方落穂集卷之十三

信陽 東條耕子蔵 校

○轉切支丹轉切支丹とい切支丹宗門より血脈續きの事

一切支丹宗門之と耶蘇宗と云切支丹とい即ち國の名也此國古へ南蠻の  
 屬國より紅毛より近き由故に此切支丹を始として其外異國の船舶  
 皇國へ航海するの説われど紅毛人之を注進を此功より由て紅毛の  
 皇國通商の免許を得る由あり此耶蘇宗門を天帝を尊信する共忠孝  
 の教あり儒を斥し佛を破し妖術を學び人心を惑を邪法あるに因て  
 皇朝支那共嚴しき制禁あり然るに何時の頃より此宗門  
 皇國へ渡來して西國北國は蔓延し元龜天正の頃平信長殊に信せし由

校正地方落穂集卷之十三







と引替よなるてなり

一 類族病死

兩判の証文  
但し二季届

是ハ檢使及ツバ親類共差出せし注進書の趣と以て取置申付且那

寺より取置し證文と取り七月十一月二季届の節書判印判しと出を

一 變死

兩判の届但し當時の届無判ふ  
ら二季届の内一書入べし

是ハ類族變死の節ハ委細の誤注進なり其節無判ふが二季届の内

へ書入べし是ハ檢使差出あり

一 出生

無判書付  
二季届

是ハ注進の度毎元帳書入勿論覚書記し置二季共裁人々ても

記し無判よと之と出を元帳紙の西の内一枚を消し目録の格は認

め二枚も入てあふ帳綴べし但し右元帳書入ると場所前後不

ま指しなれし重なり本帳認る節都合よし

一 新縁

右月断

是を本人并は本人同然の聲嫁ありし者のとあり平人より切交

丹の聲或ハ嫁ホよあはれ類族もるに由り届書出をてあり平人の事

と素入と書付あり

一 住居替

右月断

是ハ只今迄何國何村に罷居り何所の儀は付何方へ罷越たり或ハ

奉公人あふ主人替りし訣あどと書てあり

一 歸居

右月断

是を右に及せざるものよし只今迄何方に罷在り何村へ立戻りし

ふと認の出をてあり

校正也 坊 卷之卅三



一 尺落 当時届兩判

是ハ注進申出し節吟味と為し其筋より口上書と取り兩判と届と  
出と勿論此度お尋見當り次第申出べく旨堅く申付証文取置あり

一 死罪 同ひ及りて当時

是ハ罪科なりて刑は行はるゝとあれ共前方同ひ及りて死罪は行  
ひし後早速兩判より届をとり尤も本人本人同然ハ少し記も有り  
べき欲自然本人ハ死罪有之節ハ奉行所役人へ内意を閉合せし

一 出家

是ハ何系何と申者出家はし法名何と申を由二季届は書入る但し他  
國へ羅越り行脚ふと出る届は節ハ前方より之と伺ふあり

一 遁世 当時届兩判

是ハ尺落の類より少し輕き者より其意味を以て吟味の書付と取べ  
し但し當時伺ふ然を共此類ハ書判よりよし

一 養子 右口断

是ハ素人より養父母の系次第より類族に成りきルハ出生同然  
又心得てよし

一 義絶

是ハ仮令親子兄弟の縁を切ても元類族あるハ其系を離さば  
二季兩判の届但し類族

一 離別 右口断

是ハ新縁の離別あるハ元の素人より成り類族を離るゝ故兩判届但し  
離別は元類族より成るハ本系へ歸ると類族を離るは  
又依て無判の届あり

校正地 卷之三十三



一他行 届又及び

是ハ夜令ハ神佛詣或ハ養生の爲入湯ふど断リ立シ後ハ同届五ヶ月  
七ヶ月あるハ願又任せ奉行所へ届又及び但し長途ふど一年と  
越せバ二季の届と為あり

一不分明者病死 二季兩判届

是ハ系もふく且類族と斗とを決せざるを不分明者と別紙認め奉  
行所へ差出とあり此者病死とバ兩判して届多し但し且那寺証  
文ホの儀類族病死同然の事あり

右是迄ハ先年中の覚書とお宛へハ

○京都町奉行所より有之帳面字の事

切支丹改覚書

一前々切支丹宗門の由を本人有之は於てハ何年以前何方を食議有

之ハ何年以前轉邪宗門の者より共切支丹と訴人仕ハ依て罪科  
免成在所へ取り罷在ハ裁其訣委細書付申はるべくハ事

一右轉ハ前切支丹のものを有之只今迄ハ預差罷ハ裁又何を面  
職仕罷在ハ裁其訣一人毎別委細書付申べき事

一寂前切支丹を轉シ申はる以前の子ハ男女共本人同然の儀ハ間  
本人の内書入申はるべく轉シ後の子ハ男女共類族の内書入申

はるべくハ事

一前々切支丹轉シ後且那寺有之ハ何宗を平生寺へ参詣仕ハ裁  
其寺へ付届常休仕ハ裁又珠数ホと持父母の忌日ふどハ寺へ参詣  
ハ裁持佛と構ハ香花と備ハ裁其趣且那寺を慥ハ吟味と遂又下人







一本人本人同然病死伺を書判

一取置証文書判印判

一本人病死の節と塩詰と致し置番人ホハ附るゝ及リは菩提所の墓場ふ  
と及リは埋め置を伺事

一本人類族に限らば不図他所へ罷越お果ハ其処へ葬り本領へ引取  
ゝ及リは尤も証文ハ本領より出し申さるべく事

一父切支丹宗門不轉以前の子ハ男女共ハ本人ハ准レハ切支丹の子  
ハ出生の節子細有之行跡常あり故不轉以前の子を以て本人同然

と依て忌掛り其外共本人ハ准レ病死の節ハ即刻檢使差つゝハ死  
骸を改め塩詰と致し取置の候伺の上差圖に任せ葬の本証文差出ハ

節右届證文引替遣ハレ事

右ハ秋元但馬守へ伊勢守より書記進ずるハ扣の被書あり

○類族は出へき者の事

一本人并ハ本人同然の者より玄孫まで又伯父叔母甥姪徒弟近類族は出  
りあり縁者ハ本人本人同然の者の聲姑迄出る多し但し女ハ本人本人

同然より孫限りハ類族と離る勿論孫より未ハ女子の子類族と離る  
一領内住居替新縁ハ領主より申付られ後無判の届二季よ之と出れる

べく又他國へ新縁住居替ホを前方より伺ハ差圖の上申付べき事  
一類族死罪の時ハ刑せられ後兩判の証文を以て當時届りるべく尤も

前方断り及リは然し本人本人同然の者ハ格別たぐべし但し是も手  
延は為し難き候り其時の品はとるべし

一同葬の候ハ火土葬共記と及リは類族ハ何葬りとも勝手次第何事



の寺へ取置しと斗り記をべし

一類族一季居入ハ渡り奉公人ハ主人の名と帳面は記さ其者の出替の

度毎断り及り候後令書出せし共帳面は記さ及り候譜代又ハ長年

季してハ主人の名帳面は出さ也又百姓或ハ町人は飯住極り節ハ二

季多判の届り候べし帳面引合の上居所本住所あり候是又張帛及び

一本人并又類族の旦那寺院号改り節ハ二季多判の書付を以て届有

りべし附借家と居住の類族ハ家主名主への断り右月断

一妻平人夫本人同然の妻の父母ハ類族より出る

一離別ハ候令子共り共類族と離る男女共は同断但し是ハ平人の事也

一本人の妻平人として本人同然の子出生以後の離別は其子本人同然と

一因て其子の類族は離別の母より出る

一宗音替又ハ旦那寺替の候様なき子細り候前方同の上差図を受べし  
一本人同然名替の候無用なき子細り候前方同の上差図の上  
書判の証文と出さし附類族名替の候立しとあるは領主同届の上  
申付二季は多判の証文を出さし

○本人本人同然伺書上の事

一本人本人同然病死 判の取替証文と出さ

一類族病死 二季の証文 一住居替 二季とれは 無判の書付

一寢死 兩判の証文 二季届し書入べし 無判

一出生 無判の書付 一飯居 無判届

一新縁 右月断 一欠落 右月断

一死罪 同又及り候 二季の届無判但し他領 へ越り候前方之と伺



一 道世 當時届 一 養子 無判届

一 剃髮 二季届無判但し本人本人 一 法名 上日断

一 名替 右日断 一 離別 二季届兩判但し類族と離れば無判

一 義絶 離別 一 入湯 届よ及らば

一 神佛詣 届よ及らば 一 不分明者病死 二季届

一 他領本人 不時は無判但し未秋より無用と成る

一 類族のりの剃髮 法名願ひは候是亦申付らば二季は無判の書付

と以て届らるべし但し本人亦は本人同然の者ハ前方よ之と伺ひ差図

の上申付らば書判の証文差出さるべき事

同爰死當時の断りよハ之も無判の書付と以て申付らるべし又二季

病死断り証文の内書付出され九兩判の事

他領住居の類族の元へ引取り候二重の届よハ同前方伊守守より浅野

式部大捕へ達し例有之事

○宗門改の節旗本衆より書上文言の事

一 扎

一切支丹宗門の儀前より懈怠あり改申り先達仰出され此法度書

の趣金淺と違ひ処自分家未知行所百姓亦至迄切支丹一約ハしき者

由坐るべし之を依て銘々寺証文取置り事

一 寺力同心支配の者家来迄穿鑿と違ひ処切支丹又紛敷者は坐るべし勿

論寺手形取置申り事

一 此以後寺力同心支配の者家来未迄切支丹又疑敷者は坐るべし早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速

早速



申上べくい其為仍て如件

年号月日

宛所兩名殿付

名判  
名兼  
名書

○宗門改の節大名衆より書上文言の事

一扎

一切支丹宗門前より懈怠あり相改申し先年仰せ出されし法度の趣  
弥未守り松領中在り所より至迄穿鑿と遂家来下り追吟味致し  
不審成者坐あり事

一古切支丹の者末に追常々行跡疑はしき後坐あり事  
領中在り所の家来の者下り又者に至る追此以後不審成者有之に於て  
ハ早く申達をべく以上

年号月日

宛所兩名殿付

名判

○伺證文案詞の事

一何国何郡何村百姓轉切支丹誰悴父不轉以前生に於てハ本人同然当何  
月後日何十何歳に病死致し依て即刻檢使差遣し死骸を改め別  
条に坐あり之に依て塩詰及し置り差圖次第仕多べく以上

年号月日

宛所

誰書判

○取置證文案詞の事

一前文伺證文と同じ○塩詰を致しお伺の上差圖に任せ且那寺何国何  
郡何村何宗何寺より土葬取置申し為其此の如く以上



誰判

右何也也端作ふし代官と拙者代官所何國何くと書あり

○切支丹類族病死届の事

轉切支丹類族病死の覚

一何國何郡何村轉切支丹類族誰曾孫此間除誰悴当何月幾日何才にて病死致し且那寺何國何郡何村何宗何寺にて取置申す

一何國何郡何村轉切支丹誰娘同国同郡誰妻当何月幾日何才にて病死致し右且那寺何村何寺にて取置申す

右の通類族何人病死致しの間は断りの為此の如く申坐以上

年号月日

誰判

宛所

○切支丹類族出生届の事

切支丹類族出生の覚

一何國何郡何村切支丹誰孫当何の何月幾日出生何と申す住居宗音且那寺父同前より坐以上

年号月日

誰無判

幾人より右の通り但し多人数ありは一書の方宜し

○轉切支丹類族出生届の事

覚

轉切支丹誰曾孫誰悴

何宗何國何郡當何月出生  
此者居所宗音且那寺父母同然より坐す



右の通類族何人出生及レハ間ハ届の為此の如ク申坐レ以上

年号月日

宛所

誰 無判

○享保年中申仰出レ書付の事

- 一類族の者只今迄ハ追放不取成レハ共以後追放申付不苦事
- 一離別又ハ養子の儀ハ付類族と離レ者ハ二季ハ兩判の証文を以て相届ヘク事
- 一變死病死罪欠落道世ホハ二季無判の書付を以てお届ル事
- 右の通り向後お心得ル以上

申十一月

一切支丹本人同然の内出家ハ格別の間向後お果レ節伺ハ塩詰及リ

土葬成共火葬成共勝手次第取置ルて以後二季の届の節申向ラ

○一人并

- 一人并ハ本人同然の者出家の外ハ只今迄の通り塩詰及レ伺の上差
- 一類族の儀只今迄の通り替リ之事

戌五月

○村方より差出レ注進書の事

一何国何郡何村百姓本人同然誰当何月幾日何方にて病死仕レ此者父誰  
 儀何国何郡何村百姓にて申坐レ切支丹宗門の由レ何年何月幾日  
 申代官何の誰格へハ召捕長等へ遣サレハ切支丹宗門を禱シ翌何  
 年何月幾日申奉行所格よ召戻サレ何月お成レハ何年以前何の何



月幾日何才て病死仕り付何方奉行所移へ仰せ遣はされ且那寺  
にて取置り者の悴本人同然の者も坐り故死骸番人付置申進申上  
右誰儀宗何宗何郡何村何寺且那も坐り以上  
何郡何村

年号月日

名主 誰印  
組頭 誰印

何の誰様  
何の後所

誰悴  
誰印  
誰印

○檢使手代へ取付寺院并村役人證文の事

差上申證文の事

一前文注進書と同し○病死仕り者の悴誰本人同然の者も坐り故死骸

塩詰仰せ付られ名主組頭并親類五人組拙僧各の上預置申上重て  
仰せ渡され次第取置仕りぐり為後日仍て如件  
年号月日  
何寺印

何の誰様手代

何の誰殿

差上申證文の事

一前文右同断○取置り者の悴本人同然の者も坐り付注進申上  
処死骸改の上塩詰仰せ付られ拙者共へ預あされ慥又預置申上  
此者何国何郡何村且那も坐り死骸の儀下知次第取置申  
まへく小尤も其内損じ申らる様相守て申し若し不念の儀申上  
連判の者共何分の曲事も仰せ付らるぐり為後日証文仍て如件



年号月日

何郡何村

誰伴

誰

誰

誰

誰

誰

誰

印

印

印

印

印

何の誰将手代

何の誰殿

○代官より切支丹奉行へ注進書の事

覚

一何国何郡何村古切支丹何嫡男本人同然 誰  
右の者拙者代官所何国何郡何村百姓より罷在り処当何月幾日何才より  
病死仕小又付早速檢使差遣し死骸お改り処別条に坐あり間塩詰

又致し置小差因次第申付べく以上

年号月日

何の誰 印

宛所 切支丹奉行兩名殿付あり  
差出し方の名と先

覚

一何国何郡何村古切支丹誰嫡男本人同然 誰  
前又右同断○別条あり間塩詰又致し置注進申上り処死骸取置せり  
格由差因は付何月幾日且那寺何郡何村何宗何寺へ土葬又取置せ申り  
右に注進の為此の如く申坐り以上

年号月日

何の誰 判

宛所右同断 右何生れ両通認め両所へ出  
を尤も先遣し方先認

○享保十八年切支丹奉行用へ閉合の事



一 右九右衛門獨身者トクシニモトシ坐イハ付向後代官所類族漸絶申トクハ届の儀  
 如何仕イカスべく我の事書ハ付右の者死去の書付トク又添差出しトク又との事  
 一 右九右衛門獨身者トクシニモトシ田畑山林屋敷タハタサヤキハ所持仕トクラシテ借地致トクシ立家トクハ所  
 の者立取トクセ住居致トクサセ置トクハ尤も少トクク所持の衣類農具トクハ有トク之ハ右ハ菩  
 提寺トクハ遣トクシ度由所の者お願申トクハ事トク右の儀トク此方トクトク構トク之トクハ付所の者  
 其通り申付トク然トクるべくトクハ  
 一 二季トクハ届の節申上トクル我の事トク是ハ類族病死の節トクハ二季届の苦トクハ然  
 然トクるべくトクハ段挨拶有トク之ハ事トク

東京 大月忠興 補訂

校正地方落穂集卷之十三 畢

校正地方落穂集卷之十四

目錄

- 一 口論檢使願書認方ロカロンケンシカセシヨシクメカタ
- 一 行倒ニキダラト外人有レニシ之節檢使願書認方セツ
- 一 家作願書認方カサク
- 一 相標願書認方スマノ
- 一 奉行所掛の処宿預トコロヤドアゲナリ成ナリし節地頭支配チトウシハイへの届書認方トクケレヨ
- 一 吟味中病氣届ギンミチウヘウキの事
- 一 定免切替請證テウメンキリカハカセセウモン又認方〇定免切替願書認方
- 一 目安初判請書認方メヤスハツハンウケレヨ
- 一 初ハジメて公事合クシアイ成ナリ評定所請ヘイテイショウケ又掛カりへ出し節差上サレガる差出サレガし認方



- 一 評定所より差上り請書認方ハカテウレヨ サレダク ウケシヨウカメカク
- 一 過料錢上納書認方クハレウセンゼウノク カタスミクチサレダク
- 一 片疥口差出し認方ヒララウマダアク
- 一 病氣より出牢宿預申付らば節掛り役人へ差上り請書認方ビツキ セツカ、
- 一 市慈悲願書認方○評定所より於て地所見分申付らば節請書認方ビヒチガヒ ハカテウレヨ ヲイ チレコケレバン
- 一 差添人代り合願書認方サレゾヘミカハ アイ
- 一 貸附役所より村方引請未納證文案又受取書認方カレツケヤクレヨ ムラカトキウケニノカレヨウモンアレモンウケトリ
- 一 先觸認方サキアハレ
- 一 内消口證又認方ナイスミクチ
- 一 宿替願書認方ヤドガバ
- 一 牢屋見舞願書認方○吟味中猶豫願書認方ラウヤミマシ キレミチウイカヨ

- 一 吟味中掛合の上内消致度連印を以猶豫願せし処示談行届りハ破談キンミチウカケアイ ウヘナイサイノケラレシヨ
- 一 成し節の届認方ナリ
- 一 吟味中預人并手鎖の旅人月代川願認方○預手鎖人有之節請書認方アムカクニレ テテウ リヨジレサカヤキツメ アシカリテセウシ ヲケレヨ
- 一 腰掛へ双方出し節翌日申呼出し請書認方コシカケ ソウハタ ヲラチウ ヲヒタ
- 一 村々へ市尋の儀有之廻状より觸達しの節否請書認方ムラム ンカチ キ クハイゼウ フレクツ セウイナヤ
- 一 差紙頂戴市差日より延着の節差上り書面認方サレガミテウガイ サレビ エシチウ
- 一 訴訟人市判頂戴相手銘々へ相附差日以前出府着届書認方ソセウニロ ハンテウアイアテシイノイ サレビイビン ニキツフチアトトケ
- 一 奉行所より飯村申付置をし処猶又日限より付出府届書認方ブゲウニヨ キツク ナホマク ニチゲン レニツク
- 一 改印届書認方カイイン
- 一 吟味中引合人市呼出し差紙頂戴着届認方○同代引請の節書面認方ヒキアイニシ ヨヒダ サシカミテウガイ ガイヒキウケ
- 一 相手取らば市判頂戴差日以前着届認方アイテド ハンテウガイ



- 一 同代引請し節同様返答書へ相添へ差出を書面認方
- 一 市判附らし節相手方より訴詔方へ遣は拜見書認方
- 一 吟味中一同連印く日延願書認方○同破談届書認方
- 一 吟味中飯村願の事
- 一 吟味中欠落せし者日限尋申付られ日限又相成訴書認方
- 一 平常欠落者訴書認方
- 一 出火届書認方
- 一 盗賊又逢し節訴書認方

校正地方落穂集卷之十四目錄畢

校正地方落穂集卷之十四

信陽 東條耕子截 校

○口論檢使願書認方

乍恐以書付奉願上以下四ヶ条端

一 何國何郡何村誰親類誰申上奉り右誰後用事有之哉日何時罷出外

途中何村誰と口論又及び何所々へ何程の疵を被り外又付早速醫師

相掛手當仕り得共苦痛強く存命斗り難く存じ奉り外又付此段訴へ

申上奉り何卒止慈悲を以て早速檢使下し置き外様奉願上以上

年号月日

何國何郡何村 當人誰親類 誰印







何國何郡何村

年号月日

何國何郡何村  
願人誰  
親類誰  
組頭誰  
名主誰

連印

宛所

○相模願書認方

一何國何郡何村名主年寄百姓代奉申上ハ此度相模年寄何の誰何方邊ヨ  
ト相模ニ罷越シテ飯ヲ掛リノ由ヲ兼テ当村鎮守何神ヘハ心願ヲ  
年來相模奉納仕度心掛小慶幸好折柄ニ付同人弟共々以テ來ル歳日  
ヨリ晴天幾日の間相模具行仕テ奉存勿論木戸錢ヲ取り又ハ花札  
ホ配リ儀ハ決シテ坐あくの間何卒由慈悲を以テ由成下シ  
置キ存奉願上ハ以上

年号月日

宛所

何國何郡何村  
名主誰  
年寄誰  
百代誰  
相模年寄誰

連印

○奉行所掛りの処宿預け申付らば節地頭支配への届書認方

乍恐以書付奉申上ハ

一何町何丁目誰申上奉リハ何州何郡何村何出入一件の者共今幾日当由  
役所様より何由奉行何の誰様へ由差申シテ成ハ処由同人様一通リ  
由吟味の上猶又由苗役何の誰様由吟味あり由私方ハ止宿罷在ハ  
誰儀由吟味中私方ハ宿由預け仰せ付らば由付則右由請書差上ハ由  
追々由吟味有之べき旨ト引取仰せ付らば之由依て此段由届奉申上

交正地方落穂集 卷之十四



以上

年号月日

宛所

○吟味中病氣届認方端書江

何之誰知行所

何州何郡何村

右宿

何町何丁目

何屋

誰印

右宿誰申上奉り右誰儀昨我日内延奉願上則今日罷出掛合の上始末届申上なぐ外処昨夜中より何病と煩差詰取財罷在届又罷出儀も成兼い又付是非あり私より改届奉申上尤も少くして快方又趣いり早速召連届申上べく間右内河下し置此の程奉願上以上

年号月日

宛所

右宿

何町何丁目

何屋

誰印

○市定免切替申請証文認方

差上申上請證文事

当何年より何年迄何年市定免

一高

何程

何國何郡

何村

右と当村内取箇切替市定免の後奉願上外処再応市吟味の上書面の米永ほど以て当何年より何年迄何年市定免仰せ付らる旨仰せ渡され一同有難く奉存し尤三分以上の損毛は相當らば節ハ納辨仕内検見入奉願はじくは且畑方の儀ハ一國一郡へ響き程の損毛ハ格別扱



令皆損同様の凶作より坐り共容易より引方成し下りける間百姓共  
兼てお心得耕作仕るべく昔且又山崩れ小其外の損地有之れ共小前持  
高十分一は相當らざるかハ由定免年季中ハ引方お立申はざる段仰  
せ渡され速く承知畏り奉りし由年貢入納方の儀を由割賦通りお納め  
十二月十日限り此度皆納下仕り  
右の通り小前百姓連一同承知奉畏り之より依て連印證又差上申処如件

年号月日

何國何郡何村

百姓代 誰  
組頭 誰  
名主 誰  
連印

宛所

○由定面切替願書認方

乍恐以書付奉願上り

何年より何年迄何ヶ年季由定免  
一米何程  
外米 何程 切替増

由上納過

右ハ何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉り由當時田方由年貢の儀去  
何年より何年迄何ヶ年季由定免仰せ付置る由処当何年季明は付増米  
之以て跡由請て仕音先達と仰せ觸らる畏り奉りし然る由一体土地悪  
敷場亦殊更近年不作旁々小前の者共困窮お慕り是迄の上納過りて由  
出情仕漸く取續き罷在由後は付何卒由慈悲を以て前書増米より此上  
何年迄何ヶ年由定免跡由請仰せ付らる下し置る由格奉願上り以上

年号月日

何國何郡何村

名主 誰  
年寄 誰  
百姓代 誰  
連印

宛所



○目安内初判請書認方

内請

何の出入

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

何之誰知行所  
何國何郡何村

右の通目安差上ハ何月幾日ハ差日ハ尊判頂戴仰せ付ラ有難仕合  
奉存ハ然上ハ飯村の上相手銘々ハ相附拜見證文ヲ取リハ差日以前  
着ハ届申上ベキ音仰せ渡サキ承知仕リ奉畏ハ但し相手の者其節返答  
書ハ控々ハ二通宛持参罷出ベキ様相達し申スキ音是亦仰せ渡され

奉畏ハ之ハ依テハ請印形差上申処如件

年子月日

右  
訴説 誰 印  
差添人 誰 印  
何町何丁目 誰 印  
何屋 誰 印

内奉行所様

○初テ公定合メ成評定所請掛リハ罷出し節差上ハ差出レ認方  
初而公事

何之誰領分  
何國何郡何村  
誰  
何之誰知行所  
何國何郡何村  
相手 誰

何之誰様掛リ  
何の出入



月日

右訴訟方宿

何町何丁目  
何屋

同相手方宿

何町何丁目  
何屋

誰

誰

右の通り認しと一枚外は掛りへの名前を書入るに差添人の名前  
前と書入しと一枚都て二通差出らるる左をねり掛りへの名前書入  
し方へを朱引りと下る多り則是と即日訴訟方の者持参して評定所  
へ差上帳面を付し上又掛りへ其改申届申上る事多あり  
但し差出るし  
呈しを申上る

○評定所にて差上る請書認方

差上申一札の事

一私共出入地所の儀決し難は付地改申手附申代中差違はれ間場  
所は於て我意立は吟味と受都て申手附申代衆の差因申違はれ間  
敷の事

一地改申吟味中申分と立申奉行所へ差越し願出の者有之共決して  
取上申坐あゝの事

一市吟味を証据次第道理次第と相分け依怙具負ハ多之事は間手と  
廻し頼ケ間敷儀仕る由じく若し賄賂金も差出し小節申置仰せ付  
らるる間此度お慎と申べき旨且申手附申代中名連らるる小者衆  
ども聊々の品送りて申同様申置は成り成り成り成り成り成り成り  
ケ間敷儀申掛らるる早其筋へ申達し申奉行所へ申上べくの事  
一地改申吟味中農業怠らぬ地改の場所へ無益の者罷出は尤も不用の人



足差出さば都て村入用多く掛らばる格致を乞き事  
右仰せ渡されの趣逸く承知奉畏の若しお背きりしは各仰せ付らる  
為り依て市請證又差上申処如件

年号月日

市評定所掛り  
何の誰様

何國何郡何村

訴答連印

○過料錢上納書認方

市上納仕過料錢之事

何誰領分  
何國何郡何村  
誰

一錢何貫文

右石川主水正様市吟味の上上州字鞍ヶ嶽と唱へ山ハ峰通り碓氷  
市関所見通し遠圍りを守護仕の五料村の外登山お成難くはを相辨へ

カシハツ ヨウケ  
を早魁は付用水を多ク数登山波し段不狩は付書面の通過料  
錢仰せ付らる三日の内当市役所へお納むべき旨仰せ渡され市上  
納仕以上

年号月日

何誰様  
市役所

右何村  
誰

○片濟口差出し認方

片濟口市訴証

何誰知行所  
何國何郡何村

訴交 誰  
差添人 誰

訴証方宿  
何町何丁目  
何屋

月日



誰

○病氣しと出牢の上宿預け申付らるし節牢屋敷掛り役人へ差上

小請書認方

差上申の請書の事

一何の誰領分何國何郡何村誰儀何之誰格の掛りし入牢仰せ付置し  
処右誰儀病氣に付私方へ宿預け仰せ付らる慥に預り奉り之に依  
て印形差上申処如件

何町何丁目

江戸宿

誰店

誰印

月日

何之誰様組

何之誰様

○此慈非願書認方

乍恐以書付内慈悲願奉申上

一何國何郡何村百姓誰親類誰組合誰奉申上右誰儀何村誰と口論の上  
疾負せし付内吟味中入牢仰せ付らる一奉恐入右誰儀身分今般  
の吟味筋ハ奉存らるへ共平日實体とは是る不法の儀お働きの  
事も承り及んば別て極老の父母有之朝暮悲歎は沈む罷在改不便至  
極は奉存り同何卒格別の憐愍を以て此上の慈悲偏に奉願上り以  
上

何之誰知行所

何國何郡何村

誰親類

組合

誰

誰

誰

印

連印

年号月日

宛所



○評定所は於て地所見分申付らし節請書認方  
是を前各評定所は於て差上り請書認方と振合同し故之を畧を

○差添人代り合願書認方

乍恐以書付奉願上り

一何國何郡何村百姓誰差添入紹駐り誰奉申上り私儀老衰の母有之持  
病し是ゆを打卧罷在り処母節重体にお成存命の程も覺束あく存生  
中對面はしな段お歎き越り又付飯村の上兼用介抱手当お仕な存し奉  
へ之より依て代り合とて同役誰出府仕り間何卒お慈悲を以て右誰へ  
代り合仰せ付らる下し置り格奉願上り以上  
何ノ何月 何ノ誰知行所 何國何郡何村 代合願人 誰 印

宛所

分引受 誰 印

○貸附所役所と村方引受未納證文案文請取書認方

差上申請書の事

地頭何之誰拜借金返納方別紙文案文一通市渡し遊ハさる儘は受取奉  
り然る上ハ来る歳日本紙お認め右文案文添差上奉るべく之より依  
て申請書差上申処如件

何誰知行所

何國何郡何村

役人惣代

名主 誰 印

年号月日

由貸附 由役所

○先觸認方



覚

一人足 一人  
一輕尻 一匹

右を要月<sup>ヨウグヱツ</sup>は付明<sup>ツキアカ</sup>幾日<sup>イツカク</sup>曉<sup>トウ</sup>六時<sup>イツク</sup>何方<sup>ナニカタ</sup>より出立<sup>シタタリ</sup>し何州<sup>ナニシウ</sup>何<sup>ナニ</sup>罷<sup>マカリ</sup>越<sup>コシ</sup>の間<sup>マヒ</sup>前<sup>マヘ</sup>書<sup>シヨ</sup>  
の人<sup>ヒト</sup>馬<sup>ウマ</sup>川<sup>カハ</sup>へ渡<sup>ワタ</sup>し舟<sup>フネ</sup>に遲<sup>チ</sup>滞<sup>タイ</sup>あり差<sup>サ</sup>出<sup>デ</sup>し肝<sup>キミ</sup>煎<sup>セン</sup>給<sup>タマ</sup>つるべく尤<sup>モト</sup>定<sup>サ</sup>の  
賃<sup>チ</sup>銭<sup>ゼン</sup>を拂<sup>ハラ</sup>ひ罷<sup>マカリ</sup>通<sup>トウ</sup>り申<sup>マウ</sup>とべく

月日

何之誰内  
何之誰

右宿  
問屋中

是より奥へ泊り宿を順に記を

○内濟口證文認方

差上申内消口證文の事

一何國何郡何村誰奉申上<sup>アイテ</sup>私<sup>シ</sup>より何國何郡何村誰外何人相手取賃金滞<sup>アイテ</sup>  
出入申立<sup>デ</sup>当<sup>トウ</sup>日<sup>ニチ</sup>奉行<sup>サマ</sup>所<sup>シヨ</sup>へ出<sup>デ</sup>訴<sup>ソツ</sup>奉<sup>マウ</sup>り当<sup>トウ</sup>日<sup>ニチ</sup>差<sup>サ</sup>日<sup>ニチ</sup>の内<sup>ノ</sup>尊<sup>ソノ</sup>判<sup>ハ</sup>頂<sup>トウ</sup>戴<sup>タイ</sup>お附<sup>ツケ</sup>  
処<sup>アイテ</sup>相<sup>サマ</sup>手<sup>テ</sup>の内<sup>ノ</sup>何<sup>ナニ</sup>國<sup>クニ</sup>何<sup>ナニ</sup>郡<sup>グン</sup>何<sup>ナニ</sup>村<sup>ムラ</sup>誰<sup>ナニ</sup>外<sup>ソノ</sup>何<sup>ナニ</sup>人<sup>ヒト</sup>の者<sup>モノ</sup>より滞<sup>チ</sup>金<sup>キン</sup>高<sup>タカ</sup>何<sup>ナニ</sup>程<sup>ケツ</sup>の内<sup>ノ</sup>何<sup>ナニ</sup>程<sup>ケツ</sup>期<sup>キ</sup>月<sup>ツキ</sup>  
證<sup>セウ</sup>文<sup>モン</sup>と取<sup>ツク</sup>り殘<sup>ザン</sup>金<sup>キン</sup>何<sup>ナニ</sup>程<sup>ケツ</sup>と何<sup>ナニ</sup>の積<sup>ツキ</sup>り<sup>シ</sup>致<sup>シ</sup>し申<sup>マウ</sup>分<sup>ベ</sup>あり熟<sup>ジュク</sup>談<sup>タン</sup>内<sup>ノ</sup>消<sup>シヨウ</sup>口<sup>コウ</sup>證<sup>シヨウ</sup>文<sup>モン</sup>仕<sup>シ</sup>偏<sup>ヘン</sup>に  
威<sup>イ</sup>光<sup>クワウ</sup>と有<sup>アル</sup>難<sup>ガタ</sup>く仕<sup>シ</sup>合<sup>ガ</sup>ふ奉<sup>マウ</sup>存<sup>ゾン</sup>し且<sup>ツ</sup>何<sup>ナニ</sup>國<sup>クニ</sup>何<sup>ナニ</sup>郡<sup>グン</sup>何<sup>ナニ</sup>村<sup>ムラ</sup>誰<sup>ナニ</sup>滞<sup>チ</sup>金<sup>キン</sup>何<sup>ナニ</sup>程<sup>ケツ</sup>ハ未<sup>ミ</sup>だ相<sup>サマ</sup>濟<sup>シ</sup>  
申<sup>マウ</sup>分<sup>ベ</sup>ハ内<sup>ノ</sup>消<sup>シヨウ</sup>口<sup>コウ</sup>證<sup>シヨウ</sup>文<sup>モン</sup>差<sup>サ</sup>上<sup>シ</sup>申<sup>マウ</sup>分<sup>ベ</sup>如<sup>コト</sup>件<sup>ケン</sup>  
何<sup>ナニ</sup>誰<sup>ナニ</sup>知<sup>チ</sup>行<sup>コウ</sup>所<sup>シヨ</sup>  
何<sup>ナニ</sup>國<sup>クニ</sup>何<sup>ナニ</sup>郡<sup>グン</sup>何<sup>ナニ</sup>村<sup>ムラ</sup>  
誰<sup>ナニ</sup>印<sup>イン</sup>

年号月日

宛所

○宿替願認方



乍恐以書付奉願上

一何國何郡何村誰奉申上レ私儀是近何町何丁目何屋誰方レ止宿罷在レ此度何町誰方へ宿替仕り夜兩宿掛合レ及ひレ此故障差之レ間何卒レ正慈悲レ以て願の通り仰付らレ下し置レ以て招奉願上レ以上

年号月日

何國何郡何村

願人誰印

誰印

宛所

○牢屋見廻願書認方レ端書上レ同レ以上

一半紙

一食物類

右を先達て入牢仰せ付らレ以て誰方へ書面の品レ送り遣し夜奉存レ間

何品

一箴品

一掛

一筋

一錢

何程

何卒レ正慈悲レ以て右誰方へお届レ以て招仰付らレ下し置レ以て招奉願上レ以上

年号月日

何國何郡何村

願人誰印

右宿 何町何丁目

誰印

宛所 宛名を時の掛り役人の名を認りあり

○吟味中猶豫願書認方レ端書上レ以上

一何國何郡何村一件の者共奉申上レ私共出入当時吟味中レ市坐レ此掛合の上氣談内消仕夜奉存レ間何卒レ正慈悲レ以て来るレ幾日レ近レ市吟味レ市猶豫成レ下し置レ以て招一同連印レ以て奉願上レ以上

何誰領分

何國何郡何村



月日

訴訟 誰印

同

相手方 誰印

同

引合人 誰印

宛所

○吟味中掛合の上内府仕度一同連印を以て猶豫願致し掛合又及び  
し処示談行届より破談届認方

乍恐以書付奉申上

一何國何郡何村一件の者共奉申上ハ私共出入ハ吟味中ニ在坐ハ処掛合  
の上熟談仕度奉存ハ付昨幾日浦をハ吟味ハ猶豫奉願上精々掛合  
及ハ共行届申上ハ是非亦破談ハ届奉申上以上

月日

訴訟并引合人 連印

宛所

○吟味中預人并手鎖申付置をハ旅又月代凡願書認方

乍恐以書付奉願上

何國何郡何村 誰

右の者儀ハ吟味中手鎖の上ハ私共ハ預け仰せ付置をハ付此度お慎  
と置せハ処右誰儀月代長髪ハ罷成眼病と難儀至極仕ハ旨私共ハ相  
歎きハ向何卒ハ慈悲と以て月代凡仰せ付ら下し置をハ振偏ニ奉願  
上ハ右願の通ハ同済成下し置をハ有難く仕合ニ奉存以上

月日

右誰差添人 誰印

右宿 何町何丁目

誰印



宛所

○右預け手鎖人有之節請書認方

差上申請書の事

何國何郡何村 誰

右の者儀は吟味中私方へ宿預け仰せ付らる承知奉畏然る上此  
度お慎せ置用の節ハ早速召連罷出へく之に依て右請書差上申  
処如件

月日

右宿 何町何丁目 誰 印

宛所 八書林奉照上

○腰掛へ双方罷出し即翌日申呼出し請書認方 但し是ハ訴訟方  
宿へ認へき度  
申請

一何國何郡何村一件の者共明幾日召連罷出へき旨仰せ付らる承知畏  
奉然る上ハ右制限遅滞なく召連罷出べく之に依て右請書差上申  
処如件

月日

訴訟方宿 相手方宿 一同連名印  
引合人宿

宛所

○村へ申尋の儀有之廻状と觸達の節否申請書認方

乍恐以書付奉申上

一何國何郡何村名主誰奉申上申觸の趣何々の者取調べへ共当村方  
右体の者毎申上之に依て此段申届奉申上以上

月日

何國何郡何村 名主 誰 印

宛所











年号月日

宛所

代兼  
何々 誰印

○相手取らるる尊判頂戴の差日以前着届認方端書上

一何國何郡何村誰奉申上今般何方誰より私へお掛り何々出入の旨申

立当り役所様へ出訴奉り何日の尊判頂戴仕お附の付拜見

承知奉畏の則出府仕の同此段の届奉申上の以上

○年号月日

宛所

右同新  
何々 誰印

○右同新代引請し節同様返答書へお添へ差出を書面認方端書上

一何國何郡何村誰煩の付代兼誰奉申上の今般何方誰より私共へお掛り

何々出入の旨申立当り役所様へ出訴奉り幾日の差日の尊判頂戴

相附の付誰儀も一同罷出の何々何々の病氣を此節別て差重り  
罷出難き者お歎まの付余儀も私引請代と罷出の右誰へ  
の尋の儀を私より聊々相違多くお答申上の何卒の慈悲を以て  
此段の同済成し下し置まし格奉願上の以上

年号月日

宛所

右同新  
誰煩の付  
代兼  
誰印

○の尊判附の節相手方より訴訟方へ差遣を拜見書認方

一札之事

一今般貴殿より我へお掛り何々の出入何の誰様へ出訴さふれ何月  
幾日の差日の尊判頂戴仕お附ら承知畏り奉り何日の差日放日以前







木正地方...

○吟味中欠落致せし者日限尋申付置き日限又成訴書認方

乍恐以書付此訴奉申上

何誰支配所

何國何郡何村

誰

右の者欠落仕り行方お知を申上候外又付其段此訴奉申上候處追々尋方仰せ付らる猶亦先月幾日より昨幾日内を三十日限り尋方仰せ付らるを奉畏心当の所へ油断なくお尋候へ共今以て行方お知を申上候候早

何誰支配所

何國何郡何村

誰印

年号月日

宛所

○常体欠落訴書認方 端書上 又同じ

何國何郡何村

誰

右の者何親々誰并親類組合村役人一同奉申上候前書誰候何月何日不図家出仕り立候り申上候外同心當りの場所精々相尋候へ共行方お知を申上候外何故家出仕り候心當りも憂之右に付出入掛り合候と申し来ら候外へ共出先より於て何様の儀出来候事斗り難く安心仕ら

右同断

親類誰印

名主組合連印

年号月日

宛所

○失火届書認方 端書上 又同じ

...



燒失家 竪裁程

一物置所

此外燒失せし箇  
所巨細を記す

何國何郡何村 誰

右者何國何郡何村名主年寄百姓代一同奉申上以前書誰儀家内我人  
暮より坐ひ然る処当月幾日夜何時頃田廬裏の灰能く去りし居宅燒き  
物置所へ取置ひ処火消へ残り有之ハ我同夜何時頃右場所より燃立ハ  
七誰見付立立ハ付村内の者其外馳付油断多く防ぎハへども折節風  
烈しく居宅物置所其外も残り於燒失仕尤も村内高札場ハ勿論外  
類燒家人馬怪我ハ一切由坐あり且何事も怪しき夙因ハ由坐あり全  
く手過ちハお違否之前書誰儀ハ恐入村内菩提所何院へ入寺仕奉儀  
之罷在り間此段由訴奉申上以上

年号月日 指書指書

右同新儀何  
百姓代 誰

年号月日

宛所

年寄 誰 連印  
名主 誰

○盜賊に遭し節訴書認方 端書上

一何品 幾箇

一何品 幾箇

右者何國何郡何村誰奉申上ハ私家内何人暮しハ農業の間何渡世仕  
罷在り然る処当月幾日夜飯給仕廻夫ハ戸締り示致し尤も錠前ハ心付  
む家内一同卧りハ処同夜何時頃と覺へ便所ハ參りてと起出見ハ  
を表し入口の戸明有之ハ付不審ハ存家内穿索仕ハ処右の品ハお見  
へ申上ハ全ハ右の場所より盜賊忍入盜去りハ儀と奉存ハ早速所ハ  
尋ハ共怪敷夙因手掛りハ一切由坐あり間此段由訴奉申上以上



校正地方救恤集卷之十四

年号月日

宛所

何國何郡何村

何々誰印  
村後誰印

校正地方救恤集卷之十四畢

東京

大月忠興補訂

明治三年庚午九月

東京

晚翠書屋藏版

製本所 山形七兵衛

明治三年庚午九月

東京

晚翠書屋藏版



